

**令和2年度
第1回藤島地域振興懇談会
会議録(概要)**

期 日：令和2年10月13日(火)

場 所：藤島庁舎2階 202、203会議室

第1回藤島地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時 令和2年10月13日(火) 15:00～17:06
- 会 場 藤島庁舎2階 202、203会議室
- 出席委員（五十音順） 8名
上野隆一、大沼恒司、神林守、齋藤豪、佐藤智信
菅原きよ、高橋和夫、高山千代子
- 欠席委員 7名 井上佳奈子、菊池健司、齋藤真如、庄司尚樹、土門茜
松田麻季、宮野奨
- オブザーバー 県立庄内農業高等学校校長 加藤千恵
- 市側出席職員
〈藤島庁舎〉支所長 武田壮一、市民福祉課長 長谷川郁子、
産業建設課長兼エコタウン室長 成田譲、
農業委員会参事兼事務局長 佐藤友志、
総務企画課長 小林正雄、総務企画課課長補佐 叶野仁、
総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優、総務企画課主査 工藤仁
〈本所〉 企画部地域振興課地域振興専門員 本間育子
企画部地域振興課地域振興専門員 齋藤真一
- 次 第
- 1 開 会（総務企画課長）
 - 2 あいさつ（上野会長）
 - 3 副会長の選出について（総務企画課長）
 - 4 説 明・協議（設置要綱第6条に基づき会長が議長）
 - (1) 藤島地域主要事業について
 - ・令和2年度藤島地域主要事業(支所長・各課長) 資料1
 - ・令和3年度まちづくり未来事業について(齋藤主査) 資料2
 - (2) 新市建設計画（案）について(叶野補佐) 資料3～6
 - (3) 鶴岡市地域公共交通計画(R3～7)策定事業について(齋藤冠専門員) 資料7
 - (4) 鶴岡市地域コミュニティ推進計画について(工藤主査) 資料8～9
 - (5) その他
 - 5 閉 会

【会議概要】

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 副会長の選出について
- 4 説 明・協 議
- 5 閉 会

2. あいさつ（上野会長）

みなさんこんにちは。今回はコロナで、本来であれば春の段階に始めるべきものが、秋になってしまいました。今回第一回目になりまして、且つ、交代と言いますか入れ替わりが今回多くて、任期は今年2年目ですから、改選期ではないのですけれども、非常にメンバーが様変わりしております。

今年もこれを皮切りに2回でこの懇談会が終わりになります。よく思うのですが、懇談会はだいたい1回で2時間、年間2回出れば4時間になります。この中で、ほぼ大半が説明の時間に費やされますので、我々が討議する時間は1回で30分から1時間に満たない状況かと思えます。

その1時間そらの討議時間で、懇談会の審議を経て決定しましたというのも、なんだかちょっと変だなと思っており、とりわけ、重大な議案については、臨時にでも作業部会のようなものを設置して決めていかなければいけないのではないかと、事務局には意見として差し上げました。昨年も地域振興計画策定の際に、農業関係分野において、作業部会を作って討議をしております。なるべく我々の意見を行政に反映させるためには、この2回だけでは済まないと思います。本当に情熱をもって、向かうべきものに対しては時間をかけて向かっていきたい。また、それは、全員というわけでなくとも良いと思います。

そういうことで、これから来年の3月までの間、今日の審議も含めましてよろしく願いいたします。どうもご苦労様です。

3. 副会長の選出について

- 小林 総務企画課長 本懇談会設置要項、第5条第1項の規定によりまして、副会長は委員の互選によることとなっております。いかが取り図らったらよろしいでしょうか。
- 委員 会長一任
- 総務企画課長 会長一任という声がございますが。会長、どうでしょうか。
- 上野 会長 わかりました。決めさせていただきます。観光協会会長の佐藤智信委員お願いいたします。
- 佐藤智信 委員 はい、かしこまりました。
- 総務企画課長 ただいま会長より、佐藤智信委員を副会長にという事でございます。

皆さん、よろしいでしょうか。

○各委員 はい。

○総務企画課長 それでは、佐藤智信さんが副会長という事で決定いたしました。

佐藤副会長より一言、お願いします。

○佐藤 副会長 只今仰せつかりました佐藤智信です。何分不慣れですので、皆さんのご意見をお聞きしながら、また自分の考える所が合致すれば、ご意見の方をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

4. 説明・協議

(1) 藤島地域主要事業について

・令和2年度藤島地域主要事業

－ 資料1により説明 － 支所長 武田壮一

① 総務企画課長 小林正雄

② 市民福祉課長 長谷川郁子

③ 産業建設課長兼エコタウン室長 成田譲

④ 農業委員会参事兼事務局長 佐藤友志

・令和3年度まちづくり未来事業について

－ 資料2により説明 － 総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優

○上野 会長

これが今日のメインの話し合いのテーマになる項目と思うので少し時間をかけましょう。まず、質問などがあれば。

最初は私から、質問というか意見、考え方という事で。

庄農うどんの話です。庄農うどんは今年も好評を得ながら進めていますが、ちょっとお金が足りないのです。80万円の予算ですが、お金が少し足りない。プロモーションをするのにもお金がかかりますし、その為のお金は実は潤沢ではないのです。新聞広告などは、仕方なく商工会で出しましたけど。100万円位あってもいいのではないかなと思うのです。地域活性化にも役に立っているし、後ほど校長にもお話をお聞きしたいのですけれども、庄内農業高校のイメージアップというか、PRにも非常に寄与している所が多いと思っています。今年も入学生が少なからず増えているようですし、そういう意味でも、あと20万、30万出しても地域の為になるのではないかなと思ひ要望します。加藤先生から庄農うどんの反響等お話していただけませんか。

○加藤 校長

庄内うどんに関しましては、地域連携協議会さんのご支援、商工会さんのご支援をいただきまして、本当に反響が大きくて、学校でも喜んでおります。さまざまマスコミにも取

り上げていただきまして、学校にも様々な問い合わせをいただいております。出羽商工会さんにも問い合わせがあると伺っております。

先日、中学生対象のオープンキャンパスをいたしました。今年度は2回実施する予定だったのですが、10月の1回のみとなりました。中学生の参加が68名、保護者の参加を合わせて100人弱の参加者でした。昔からいる教員の話を書きますと、今回の10月の説明会に参加した生徒の8割位は見込めるかなということで、今年入学生54名を超えまして、ほっとしております。80名の3分の2を超えるというのが、我々の1つの目標です。57名という事でほっとしております。

今年度もぜひ、昨年度よりも多くの入学者を、子どもが少なくなっている中ではございますが、入学して欲しいと思っています。

オープンキャンパスに来た生徒も、やはり庄農うどんに関心を持っていて、庄農に入ったなら、中学校にない農業部に入りたいという生徒も多くて、非常にありがたいことだと思っています。

今後ともご支援のほど、よろしく願いいたします。

○上野 会長

このような意見ですが、成田課長、予算の関係等どうでしょうか。

○成田 産業建設課長兼エコタウン室長

この他にも、庄農さんが全国的な高校の作品コンテストに行くための費用とか、社会福祉協議会さんと一緒にやっただいている農福連携農園の事業等も一緒に展開しております。全体の枠を拡充するようなイメージでなければ、なかなか庄農うどんの方の予算を増やしていく事はできないと思っています。そのため、増額要求を行っていきたくて考えております。

それと合わせて、ぜひ、この庄農うどんの取り組みを地域農業の部分にも波及させたいというねらいはありますが、なかなか調整ができておらず今年は参加店舗に直接出向いて、地元農産物と一緒にうどんを提供してほしいとお願いに回りました。

来年は準備段階から、藤島地域の農産物を、うどんと一緒に提供してもらえるよう調整を図っていきたくて考えております。

会長の意見にあったような増額は、頑張っていきたいと思っています。

○上野 会長

ありがとうございます。皆さん、他に何かございませんか。

○A 委員

Hisu花ですが、去年は人が相当増えそれに関しては何も問題はないのですが、人が集まったからいいと自己満足してはいけません。相当の予算を使ってやるのだから、損得の

問題ではないが、日中は公園にほとんど人がいない、夜ばかり。商店の人や、農家の人が出店していたが、実入りがない。人が集まって自己満足では、面白くない。今年の予算全体で1500万円、せめて倍くらいにならないのか思っていましたし、しかも項目がすごくありすぎる気がし、絞ることが出来ないかと思えます。

○上野 会長

わかりました。

前にも、Hisu花のイルミネーションの時間をもっと長くできないか、冬の雪の降る間だけではなくて、春や夏や秋でもと意見が出たのですが、もうちょっと時間の問題や季節の問題は、今までの経験を踏まえて再検討して時間を長くするような方向で考えていてはどうでしょうか。

○武田 支所長

今、会長からもお話があったように、多方面からも、イルミネーションに関しては、時期や時間の問題を頂戴しております。結果的に今年度はワークショップの方から検討して頂いて、去年と同じ時期・時間と計画しておりますが、今年度はコロナ渦で、大々的なイベント等を控えている状況があったものですから、昨年度並みの点灯は維持しようという考えで、さらに今年度はブルーライトをテーマにして、医療機関の応援などの発信もしていきたいと思っております。

なお、今後の時期的な問題等に関しましては、色々な意見も頂戴しておりますので、検討していく必要があるのではないかと考えています。

先ほど、A 委員からもご意見ありました。実は来場者は、昨年度より増えました。それまで公園には3,900人くらいしか来場者がいなかったものが、2万人を超すほどになっております。ただ、人が来るだけで何も実入りが無いというのも、ご指摘の通りです。

昨年度6月から10月まで、「いづみや」さんに出店して頂いて、今年もやっておりますけれども。そういった形で、なんとか売上にも繋がるように仕掛けも考えております。区画もあと2区画ございますので、募集もすすめたいと思っております。

○成田 産業建設課課長兼エコタウン室長

付け加えます。イルミネーションで人が来るので、昨年も冬の点灯期間、地元の商店に営業時間の延長をお願いし、イルミネーションの休憩所に営業時間の延長をしているお店のチラシを置かせてもらいました。結果までは集計しておりませんが、地元の商店、地元の飲食店にお金が落ちるような取り組みは、昨年やらせていただきました。今年もまた、協力をお願いし地元の店にも寄って頂けるように工夫をしていきたいと考えております。

○上野 会長

他にありませんか。

○B 委員

今日の資料、来る前にちょっと目を通したくらいなのですが。

農業関係の事ですが、藤島はずっと米、単作地帯でやってきたので、なかなか園芸の方に取り組む農家が少ないです。園芸振興をJAとしても啓発をしているところですが、実際、枝豆の施設も国から不採択となり、次年度の採択に向けていましたけれども、なかなか園芸に取り組む農家が少なく敬遠されています。

後継者支援もありますし、行政やJAでも毎年婚活パーティーを開催しております。やはり男の方の応募が多く女性の方が少ない。

実際、カップルは毎年数組出来ているようですし、昨年度は、1カップルは結婚した、そのような取り組み状態であります。地域を見ましても未婚の方が多い、なかなか「婚活、婚活」と言うと遠慮されると思いますが、是非、取り組んでいかなければならない一つだと思っております。

長沼・八栄島地区のデマンドタクシー、10月5日からテスト運行したとの事です、当初、私もデマンドタクシーには関わっていたのですが、途中からお呼びがかからなくなって。

大東文化大の大学生が色々やってくれ、ワークショップ等をやったのですが、長沼と八栄島、少し地域の温度差があるのではないかと聞いております。熱があるのが八栄島、熱のないのが長沼と。

テスト運行、先行してやっている東栄地区のような運行にはならないとも聞いています。予算も228万予算要求との事です、内訳はどうなるのか、そのあたりもお聞かせ願えればと思います。長沼と八栄島分けてあるのか等もお願いします。

もう一つ、農業委員会の取り組みの事です。私も11月から農業委員になりますが、たがわ農協の枠があるとの話ですが、たがわ農協から出た農業委員はあくまでも、その任期で交代するとの申し合わせをしています。昨年、齋藤事務局長から、できれば長くやってほしいと話がありましたが、たがわ農協からの農業委員は任期で終わるとご承知おき願いたいと思います。

地域農地は地域で守る、とありますが、実際は他地区の方が入ってくるケースがこのところ見られます。できれば地元の人が受けてもらえたらと思っている所ではあります。草刈り、水かけなどは共同作業等がありますので、他地区ではなく地域の人から入ってもらえればと思っていますが、地区の人手も手を挙げているはずなのに、なぜ他地区の人が入るのか、農業委員会事務局長にお伺いしたいと思っています。

○齋藤 総務企画課地域まちづくり企画調整主査

地域公共交通の件です。本日の資料の数字は本年度予算となります。令和3年度については、まだ金額が確定していないものですから、今日の段階では金額は出しておりません。

長沼・八栄島地域公共交通事業については、来年度は本格運行ではなく、実証運行としているので、東栄地区とは違うと思われるのかもしれませんが、中身としては本格運行と何も変わりはありません。

実証運行を行うという事になるので、来年度は地域でその運行を回すことになるものですから、その地域に補助金を支出するという事になります。ですので、来年度からは、実際に東栄と同じような乗車が出来るといえるようになりますので、ご承知おき頂きたいと思います。

○上野 会長

はい。他、ございませんか。

○B 委員

テスト運行の感想などはありませんか。

○齋藤 総務企画課地域まちづくり企画調整主査

テスト運行ですが、先週月曜日から土曜日までの6日間実施しております。

長沼・八栄島地区、各町内会にお願いして、乗りたい方を推薦いただくような進め方をしました。両地区から29名応募がありました。

本番を想定して、予約から29名の方にやって頂きました。2名ほどキャンセルが出たとは聞きましたが、その取りまとめが今週中になっており、全員の方にアンケートを書いってもらうことになっているのですが、アンケート結果がまだこちらに届いていない状況で、まだ内容については分かっていないです。

大東文化大学に調査事業の委託をお願いしておりますので、アンケートの分析に関しては大東文化大学にお願いして分析作業を進めていただいております。11月13日に長沼・八栄島地区の第4回検討委員会を開催予定ですので、その際に報告する予定でおります。

○佐藤 農業委員会参事兼事務局長

農業委員会です。先ほどのB委員からの質問ですが、入り作が多くなっているという話ですが、基本的に農業委員会の場合、農地中間管理事業といい、貸す方が相手を指定しないで、最も有効に利用できる方に貸付するというのが主流になっており、そうした制度を使う農家の方が多くなっています。その場合は地域の中で最も有効に使える方に配分するわけですが、やはり農家の方からすれば自分の指定した人に貸したい。また、信頼できる人に貸したいなど、そうしたものも根強く残っております。その場合、農地中間管理事業を通さずに自分で自分にするという事であれば、受け手のある一定の要件を認め

られれば、そうしたものも可能になっております。

こういった課題もありますが、農業委員会としては相手を指定しない、農地中間管理事業を今後も進め、PRしていきたいと思っております。

○上野 会長

はい。時間もだいぶ経過しましたので、まず（１）についてはとりあえず終わらしましょう。

（２）新市建設計画（案）について

資料３～６

－ 資料３～６により説明 － 叶野 総務企画課課長補佐

（３）鶴岡市地域公共交通計画（R3～7）策定事業について

－ 資料７により説明 － 齋藤 企画部地域振興課地域振興専門員

○上野 会長

それでは、新市建設計画案と地域公共交通計画について説明を受けました。

特にこの公共交通については先ほど、まちづくりの中でも「暮らしやすい藤島を実感できる生活基盤の再構築」で、長沼・八栄島のデマンドタクシーの話とか、私の予想では高齢者の交通の確保が非常に困難になっていく状況にあります。今説明があったのは、抽象的にはこういう方向になるのだと、でもこれらは抽象的な話でなく、これらを具体化するにはどうするのか。これに少し時間をかけて論議していけたらと思います。

今日の１つ目はまちづくり、２つめはこの公共交通の話に時間を取りましょう。

今までよりはデマンドタクシーによって、当然進むとは思いますが、これで解決できているかという、なかなかそうもいかない。定期バスはますます廃止路線が増えていくようです。行政も民間も一緒になって今後の足の対策をしっかりと考えていかなければ、10年後、20年後不安になってくる訳ですから。なるべく民間の力を行政に反映させて、できれば一緒になって1つの活動を行うのが望ましいと、私は思います。

C委員さん、どうですか。

○C委員

今のところは自家用車を動かせる年代の人たちが多いうちはいいですが、私たちももう目の前に免許返納が近づいて来るのは感じます。実際、車に乗っていた人が返納すると動けない。認知が進むというか行動範囲が狭くなり、あの人最近見かけないがどうしている？となった時、家にいて、元気な人もいますが、そういう方向に行く方もかなり多い。そういうことを考えると自分もそうなるのははられないと思います。

免許返納したら他の地域だとポイント制、ポイント付与という所もありました。そういう何かメリットが藤島では今のところないのですか？例えば、使ったらポイントが増えて

いく。貯めたら何か地元の物と交換できる等があればと思います。Aコープやマックスバリュが人気なのは、やっぱりポイントが大きいのかなと思うので、そういう身近なものを取り入れる方向で行ったらいいのではないのでしょうか。そういう何か特典があればいいかなと思います。

○齋藤 企画部地域振興課地域振興専門員

ご意見ありがとうございます。

まず、免許返納者に対するこちらからの支援といたしましては、交通を担当いたします防災安全課で行っております。バスの回数券または、タクシーの回数券5,000円分という形でプレゼントしております。

先ほどお話がありましたポイントカードですが、羽黒の「にこにこバス」で行っている取り組みと承知しておりました。温泉施設の「ゆぼか」とタイアップしまして、庄内交通と乗り換えのできるアクセスポイントとなっております。そちらの方とタイアップしまして、「ゆぼか」ポイントカード15ポイントでゴミ袋と交換、20ポイントで「ゆぼか」の無料入浴券引換という形になっております。民間の事業所の方々と交通を組み合わせ、双方ともに利益が出るような形の取り組みを進めているのが羽黒地域で、それをできれば全域に拡大出来ればなと考えております。

○上野 会長

私も個人的にこの問題は重要な問題だろうと思ひ十数年前ですが、NPOを作り、高齢者の足の事業をやってみたのですけれども、一年で300万円くらいの赤字になって、ちょっともたないと思ってやめました。

NPOはこの間、解散手続きしました。前は補助金がもらえなかったのです、ちょうど鶴岡市と合併した当時ですが。本当は藤島町の補助金目当てで上手くいくかなと思ったのですが、上手くいかなかった。でも今だったらやっていけるのかなと思ひていて、例えば民間でそういった動きを誰かが示して、NPOなりを立ち上げて、役所と一緒にしながら進めればよい。どうもこのデマンドタクシーは、非常に役所的な、肩肘張ったような動きに思ひてならないので。もっと自由に自分の車のように動けるようなシステムは作れないかと思ひております。

○D 委員

私は古郡なのですが、古郡は東栄のデマンドタクシーが使えます。近所で使っている人もいて大変便利なようなのですが、町内会には、「ちょっと、あの方危ない」と思ひするような運転の人も他に何人かいても、それでも返納しない。

デマンドタクシーを見て思ひのですが、今八栄島とか長沼地区でも始めようとしていて、それは一つの方法として大変ありがたいのですが、小回りがきかない。今後もっと高齢化社会となり、ニーズが多くなっていく。そういうなかで、会長さんが言っただようなことを

私も思っていました。個人タクシー組合のようなイメージで、電話一本で来てくれるような、何とかそういう形を作っていけないか。そうすれば、結構小回りがきき、これから高齢化がますます進む中で対応してもらえないのではないかと期待をしています。

高齢化というと、なんだか身につまされるのですが、一方で若い人が少ないので、若い人をどう藤島に取り込んで、その人たちが藤島にいて良かったと思える暮らしを支えていけるか。そういう所に役所も力を入れて頑張ってもらいたいと思います。そうでないと沈没してしまいます。

○上野 会長

やはり民間の力、若い人の力が必要なわけでも、そういう人が行動を起こして、役所がリードするのではなく、役所が下から応援する形の方がよい。役所がリードするとあまりよくない。誰かがやってみないと。

○E 委員

海外だとUberってありますね。あれの庄内版とか、鶴岡版を作れたらいいと。そのサイトの登録しているドライバーさんが、近くで誰か乗りたいよとなったらその人が行って。白タクっていう法律に引っかかる部分もあります、何かしらそういった仕組みを作れば全部解決するのではないかなと思います。

○上野 会長

問題なのはタクシー会社もあるわけなので、共存していく必要がある。話し合いを行い、調整できればいいのですが、利益を考えると合わないのでは協力できないという可能性もある。そこが打開できればチャンスがあるのですが。

○D 委員

でもタクシー会社もかなり高齢化して、事業が難しくなっていますね。

○武田 支所長

使い勝手が良く、時間も関係なく何処へでも行けるようにする仕組みは、実はタクシーと同じなので、それを公共交通でやってしまうとタクシー事業を圧迫してしまうという事で話が進まない。現状のタクシー事業も踏まえつつ、実施できる一つの手法としてデマンドタクシーが有効と理解されている。

○A 委員

私も公共交通の集まりに行くのですが、立派なことを言ってもタクシー会社に全部反対されます。

○ C 委員

藤島のタクシーは、今なくなりましたね。あれはやはり利用者がいないという理由なのですか。

○ 武田 支所長

廃業した引き金はコロナ渦による利用者の減少が大きかったようです。藤島地域内での利用は需要があるので、今は出羽ハイヤーが進出しているのです。また、タクシー事業は色々と営業圏があり、東田川郡のエリアでの営業圏を持たない営業所はそのエリアの中での運行はできないのです。

○ E 委員

私も運送業で、青ナンバーを持つての運行をしております。タクシーは物ではなく人なのですけれども、法律のくくりとしてはほとんど同じで、協会も同じですけれども、実際コロナ渦の中で、鶴岡の一番大きいタクシー会社がなくなったという事実もあります。どれだけ稼働率があるかはわかりませんが、その人たちを基本的に動かさないと、今言ったようなデマンドタクシーとかを有効に使うのが厳しいと思います。

持論ですが、例えば人口が増えない。ちょっと前に婚活の話があったと思うのですが、実際婚活なんかやっても、やる気のない人を集めたところで何ともならないと思います。私は子どもが三人いますが、娘が今年25歳。孫が二人いまして、私は歳が49歳なので、49歳で孫二人はなかなかいないと思っています。

結婚してなぜ早く子どもを作ったかというのは、まあ色々ありますが、早く付き合っって早く結婚すればいいだけなのです。出来ない理由は、結婚式を今あまりやらなくなりました。私の家では結婚式をやりましたが、200人ぐらいの前で結婚を宣言すれば、なかなか別れられないと思います。そして子どもも作る。家も建てる。定住する。良い事だらけです。ただ、お金がかかるのです。今ブライダルローンというのがなくて、二十歳そこそこで300万円作れないので銀行に個人で借りることになり、13%とか取るじゃないですか。親がお金を出してくれたらそれで済みますけど、そうでない家庭がいっぱいいるわけです。でも式は挙げたい。市などでぜひ、利子補給等出来ないかと思います。

三川町が子育て生活が充実しているとなれば、そっちに行ってもおかしくないのです。非常にもったいないと思っています。

それと同じで、デマンドタクシーみたいなものも含め、足が不自由な人が使うとなった時に、やはりタクシーを使ってほしいというのがあり、お金の話だと思うのです。例えば、Aコープに行けば物を買う、税金とか売り上げ貢献になると思うので。そういった所の補助をいかに充実させられるか。免許を返納しても五千円のタクシー券しかもらえません。今年から下がって五千円になりました。普通なら上げるころだと思いますが予算とかいろいろあるのはわかりますが、なぜ下げるのかなと思います。

例えば、使えば補助する方がよいと思うし、一律に配ってしまうと、懐に入ってお仕舞

なので。そういったシステムを少し考えたほうがいいのかと、商売としてはなかなか厳しいとは思いますが。

○上野 会長

多分普通の民間企業でやってもダメだろうと思うのです。補助を得られるような経営スタイルで補助金をもらいながらやっていくという体制でないとダメだと思います。それにしても、誰か一人が手を挙げてくれないと。これをやりたい人が現れたらいいと思うのですが。まあ、ここで決まる訳ではないですが。

引き続きこの問題は、だんだん大きくなっていきますから、この場で、人が変わっても何度も考えていかなければいけないことと思います。

○武田 支所長

おそらく現行のデマンドタクシーには、まだご不満があるのだと思うのです。ぜひご意見をお寄せいただきたい。

○A 委員

デマンドに関しては、今現在東栄地区ではやっていますが、東栄地区であれば古郡と大川渡、谷地興屋が利用していますが、今F委員さんが言うような、野田目とか、越後京田、下中野目、藤岡、そういう所にも展開出来ないのでしょうか。

○武田 支所長

そういう意味では、来年度のまちづくり事業に藤島地区の交通再編事業というのがあります。

今走ってない所も含めて再編を検討しています。庄内交通のバスとの兼ね合いもありますので、なかなか言い切れない所もあるのです。

○F 委員

まず、さっきの話で感じた事です。A委員さんもそうですが、私は年間個人的に10万近く長沼温泉に通って使っています。今年の春ですが、羽黒に行ったら、毎朝来ていた人が羽黒の風呂に入っていたのです。なぜ羽黒に変えたのか尋ねたところ、免許を返納したのだと。「ぼっぼ」に行っても自分のいい時間で来られない。要はバスの本数がない訳ですから。それで、「ゆぼか」に通っていると。「ゆぼか」はしょっちゅうバスが走っているから。C委員さんのお話でポイントがあると聞き、それならそっちに行くと思いましたが、是非とも藤島に人が集まるように考えていただきたい。

あと私の個人的な事ですが、藤島で飲んだら帰るのが心配です。車がない、代行もない感じ。この前、どこでもいいから頼んでくれと言ったら、鶴岡料金になりますがいいですかと聞かれ、そのまま頼んだら通常の三倍くらいかかっていました。そういった所か

らも、なかなか飲みづらい感じにもなりますし、この間言っていたのは庄内町、特に余目は羨ましいほどいいよと。たぶんあのくらい飲み屋さんがあれば人も動いているだろうし、風呂もいいのか悪いのかわからないのですが、庄内町の住民だけは平日300円とかそういった事もやっていました。長沼もせっかく鶴岡市は大きい市なので、そういった所でも人が集まるようなやり方が出来るのではないかなと思うのです。とにかく人が集まらないと何も動かない感じがしますので、そういった所の改善をお願いします。

○上野 会長

人の移動ですね。移動が円滑にできれば集まりもできるのだとわかりました。とにかく課題、問題として検討しましょう。

(4) 鶴岡市地域コミュニティ推進計画について

— 資料8～9により説明 — 総務企画課主査 工藤仁

(5) その他

○上野 会長

ありがとうございます。

私の個人的な意見ですが、文章が作文で現場の具体的な取り組みが全然入っていない。具体的な取り組みという以上は、単なる「教育活動の実践」とかではなくて、具体例を入れてくればいいのですが、分かりにくくて。具体的で分かりやすい説明を心がけてください。では、時間も時間もすし、懇談会の協議については終わります。いいですか。

○各委員 はい。

○上野 会長

では、どうもお疲れ様でした。

6. 閉 会 (小林正雄 総務企画課長)

長時間にわたり、ありがとうございました。上野会長には議事進行、ありがとうございました。皆様からは、大変積極的なご意見も頂けました。時間の関係と、内容も盛りだくさんで、言い足りない方もいらっしゃると思いますが、先ほどのコミュニティ推進計画についてはFAXで頂ければと思います。それ以外でも、こちらに来た時や電話でも結構ですので、気付いたこと等ございましたらご意見いただけましたらと思います。

本日ご協議頂いた内容に関しましては、事務局で精査、整理いたしまして予算要求と今後の事業に反映させていきたいと思っております。

次回の懇談会は来年の3月の予定ですが、改めてご案内いたします。

それではこれもちまして、第一回藤島地域振興懇談会を閉会いたします。
本日はありがとうございました。